

子育て Q&A No.6 ～子どもへの接し方①～

親のことをききません… どう話しかけたらよいのでしょうか



接し方を変えてみる

人の性格は6のタイプに分けられ(人格適応論より)、それぞれに好ましい接し方があります。とかく親の接し方はワンパターンになりがちです。接し方を変えてみるのも一案です。

【想像型】聞き分けがよいけれど何を考えているかわかりにくいタイプ → **明確な指示をする**

【行動型】リーダータイプ → **頭ごなしに否定しない・大人扱いをする**

【信念型】間違っていないことを確認しながら生きているタイプ → **受け止め認めてあげる**

【思考型】考えて行動するので時間がかかるタイプ → **時間の提案をする**

【反応型】楽しく陽気なタイプ → **遊び心のある問いかけをする**

【感情型】人の気持ちに敏感なタイプ → **気持ちを高める声かけをする**

あくまでも対応のひとつです。合体型のタイプもあります。

いろいろ試して、わが子に合う声かけを見つけてください。



子どもを叱った後は気まずいのですが…



しっかり抱きしめる

危険なこと、やってはいけないことは、何が何でも止めなければなりません。そのあとが大切です。子どもは親に嫌われてしまったと思い自己肯定感が下がっていますから、しっかり抱きしめてやりましょう。間違った言動は叱りますが、子どもの存在自体はOKなのです。そして、後で何が起こったのかを伝えてやりましょう。

子どもたちが お母さんを取り合ってけんかになってしまいます…



ひとりひとりに特別感を与える

子どもは、いつでも「おかあさんの一番でいたい」のです。だから、それぞれに特別感を与えることも一案です。言い方や、やり方を工夫してみましょう。

「一番目の子は飴ひとつ、二番目の子は飴ふたつ」と、遊び心とゲーム感覚で順番を決めさせる。「お姉ちゃんは後でたくさん聞くから」と、事前に特別感を与えておく。

抱っこをせがんでばかりです このままでいいのでしょうか



ゆっくりと母子分離をしていく

子どもは抱っこしてもらうことで安心感を味わいます。赤ちゃんは母親と自分がひとつだと思っています。異なる人間だと理解していくのが母子分離で、目安は3才くらいからですが個人差があります。ゆっくりゆっくり母子分離していくことが大切です。

